

「日々の理科」(第1650号) 2019 (H31), -1, 14

「月齢1の月を撮影する(4)」

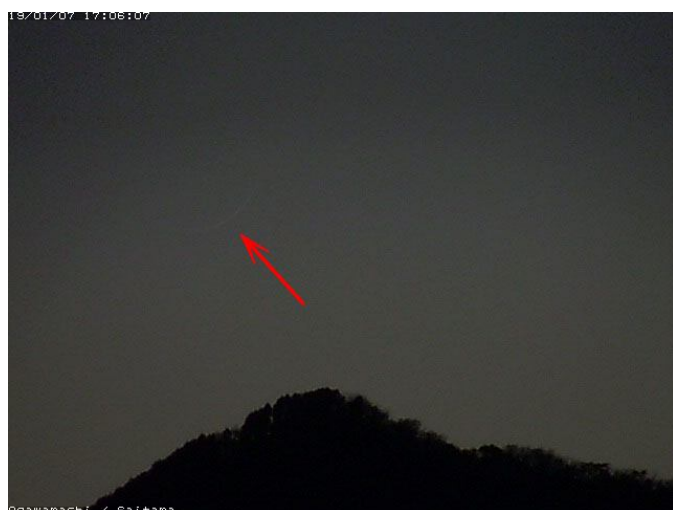
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「月齢1の月」が沈む、1月7日の夕方、東京のコンピュータを埼玉県小川町の観測カメラに接続した。このカメラは、恒星なら9等星まで写せる性能なので、私は最初、あっさりと「月齢1の月」が見つかると思っていた。しかしそう簡単ではなかった。

日没20分後ぐらいから、笠山の山頂付近にカメラを向けて探索したが、全く見つからない。この日の月の入(月没)は17:10、かなり焦ってきた。



しかし17:06に、ついに笠山山頂の左上に、淡く弧を描く物体をとらえた。私は「アーー、あった! あった! 見つけた!」と大声を出したので、となりで仕事をしていた同僚が、何事かとびっくりしていた。



カメラのシャッタースピードを少し下げ、露出を上げると、はっきりと「月」とわかるようになった。



「月齢1の月」 東京から遠隔操作で撮影

2019年1月7日 17時09分02秒

埼玉県比企郡小川町笠山 / C. Tanaka

それにしても細い!まるで糸のようだ。細い月が「途切れ途切れ」に見えるのは、月の縁の地形(クレーターや山脈の凹凸)の影響で、太陽光がうまく当たっていない場所があるからだ。風でも吹けば、粉のようにバラバラになってしまうような月である。



17時11分、月齢1の月は笠山山頂の右下に沈んでいった。この日、小川町だけでなく、恐らく日本中でこの月を見ることができたのは、何人いただろうか?もしかしたら、私一人だけだったかも知れない。恐ろしいほど美しく、孤独な月だった。